

インターンシップに参加しよう

実体験を積むことで新たに見えてくることがある

一般企業や行政機関など、アルバイトでは経験できない職場で実習してみると就職後の自分の姿をリアルにイメージできる。思わぬ発見があるのもインターンシップの大きな魅力だ。

インターンシップの本来の目的

インターンシップとは、在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験をおこなうことです。大学での学修と社会での経験を結びつけ、社会に通用する知性を身につける機会として積極的に参加してみましょう。本学では各学部が正課の授業科目として実施する「アカデミック・インターンシップ」と、進路選択支援の一環として実施する「キャリアデザイン・インターンシップ」を、相互に協力しながら推進しています。

目的別各種プログラムの紹介

・行政インターンシップ

各行政機関が主催するインターンシッププログラムです。参加を希望する行政機関のホームページ等で募集の有無、募集要項をご確認ください。多くの行政機関では、応募書類の提出先が大学キャリアセンターになっています。手続き方法や締切期日等について、よく確認の上、遅滞ないよう手続きを行いましょ。

学部1、2年生から参加できるプログラムも多数あります。公務員を目指す方だけでなく、行政の仕組みやその仕事について関心のある方も、参加するメリットは大きいでしょう。百聞は一見に如かず。この機会を通じて、国、地方、それぞれの役割を肌で感じ、学びに結びつけてみましょう。

・次世代リーダーズプログラム～Business Collegeコース～

学部1、2年生対象の産学連携インターンシッププログラムです。学内での座学(学内セッション)と企業での実習(企業セッション)により、社会で生きる力を養うための初めの一步として積極的に活用しましょう。当プログラムの一つの特徴は、一貫して企業の実務担当者から学ぶことができるという点です。座学で学ぶこと(インプット)と実社会で成果をだすこと(アウトプット)の違いを知り、社会人のスタンス(考え方)・マインド(志)・スキル(知識・能力)を肌で感じることで、真の自立により一層近づけることができるでしょう。



・架け橋プログラム

学部3年生以上を対象とした産学連携インターンシッププログラムです。昨今の就職活動では、インターンシップが進路決定に大きな影響を与えるようになりました。企業の中には、採用を見据えたインターンシッププログラムを実施するところもあり、学生は、目的に応じて数あるインターンシップを自分自身で選び、使い分けの力がこれまで以上に必要になっています。架け橋プログラムには、年間約250社が登録し、様々な種類のインターンシップがエントリーされています。同プログラムは、Career Center netを通じて検索することができ、インターンシップの形式(「就業体験型」「説明会型」等)に応じて抽出できるようになっています。それぞれの目的に応じて、学生自ら選べるようになっていきますので、自らの習熟度等に応じてインターンシップを使い分け、成長につなげていきましょう。

また、書類選考や面接選考にむけては、キャリアセンターの個人面談等を利用し、万全の準備を行いましょ。